

自社独自の技術シーズを活用し、有機物フリー耐火ボードやコーティング材を開発

耐火物の製造、加工を中心に業務を展開し、研究開発に意欲的に取り組む。コア技術の低粘度、高固形分の分散溶媒を合成する技術を応用し多数の特許を出願している。あいち産業科学技術総合センターと共同開発した有機物フリー耐火断熱ボードは、特殊な乾燥装置を必要とせず内部まで強度のある有機物フリー耐火ボードを製造可能にする技術となる(特願2016-082798)。また、同センターと共同開発したセラミックファイバー用コーティング材を販売(特許第6311135号)。

- | | | | |
|---------|---|-------|-------|
| ●所在地 | 愛知県常滑市坂井字水戸狭間73番地 | ●設立 | 2006年 |
| ●電話/FAX | 0569-35-2955/0569-35-0559 | ●資本金 | 300万円 |
| ●URL | http://inui-coating.com/ | ●従業員数 | 10人 |
| ●代表者 | 代表取締役社長 大野 耕藏 | | |



自社独自の技術シーズを活用したコーティング材を開発

自社独自の低粘度、高固形分という特徴があるコーティング技術をあいち産業科学技術総合センターと共同研究を行う。知の拠点あいち重点研究プロジェクトの中で「セラミックファイバーの加熱収縮を抑制するコーティング材を開発し、鉄鋼用溶解炉用取鍋の蓋やアルミニウム鋳造炉用の蓋等で実用化されている。現在、省エネ効果が期待される遮熱放射型コーティング材や、アルミニウム溶湯に浸食しないコーティング材、不燃木材やパルプモールドへの応用を検討している。



セラミックファイバー用コーティング材

常滑焼という地域資源を活用して成型・再利用技術を開発

愛知県常滑市は六古窯の「常滑焼」の産地であり、地域資源となっている。常滑焼の急須、食器等の製品を製造する際に発生した不良品は、製品を焼成する前であれば原料に戻すことが容易だが、焼成後の不良品である陶磁器屑(シャモット)は活用できずに埋立処分することが多かった。そこで、この廃棄されるシャモットを粉砕し、特殊なバインダー溶液により流動性を持たせて成形・再利用する技術を開発して「焼却炉」の内側に貼る補強材や焼成炉で使用する台車等を作製している。



陶磁器屑(シャモット)を再利用した開発品

環境に優しいセラミックボードを開発

一般的なセラミックファイバーボード製造に必要な有機バインダーを用いず、なおかつ従来の乾燥装置をそのまま利用可能な製造方法を確認した。有機バインダーを用いた従来品は、加熱時に煙やにおいが発生するため、一度焼成してから出荷するといった工程が追加されることがあり環境面で大きな負荷がかかっていた。あいち産業科学技術総合センターと共同開発した有機物フリー耐火断熱ボードは、使用時に煙やにおいを発生しないため、環境にも優しい製品である。



有機物フリーの耐火断熱ボード